47年振りに京都に帰ってきました

第58回日本薬剤師会学術大会（10月12日（日）、13日（月・祝）於国立京都国際会館）

一般演題部門担当
中川 直人

（その６）一般演題部門　中川 直人

一般演題部門担当の中川直人先生にお話しを伺いました。

―今大会ではどのくらいの演題数になる見込みですか―

正確な数については伏せますが、500演題を上回る応募がありました。直近の大会ではアフターコロナ間もない時期ということもあり、演題数が伸び悩んだということもあると思いますが、今回は増加傾向にあり、京都大会が注目されているという表れでもあると感じています。

――一般演題部門はどのように運営されていますか―

基本的には裏方です。分科会部門や会場部門の皆様とも連携しながら、演題募集から査読、部屋分け、座長への依頼、当日の運営に至るまで、実は大変多くの役割があります。

この部門担当者は華やかな表舞台に立つことはありませんが、一般演題の会場にはご自分が発表される、または付き合いのある方や興味のある演題を見に必ず参加されるはずなので、一般演題は「学術大会のメインイベントの一つであること」に誇りを持って日々取り組んでおります。

――一般演題部門で苦労されていることがあれば教えてください―

演題の査読には苦労しました。私自身の経験も影響していますが、登録演題が多かったため、査読にも多くの方に参加していただき、何とか大幅な遅れもなく、査読を終えることができました。査読委員長をご担当いただいた村木優一委員長（京都府薬剤師会理事）には大変お世話になりました。また、査読委員の京都府薬剤師会理事の皆様、各種委員会の皆様、大学教員の皆様におかれましては本当にありがとうございました。

―参加予定の皆様、発表予定の皆様にむけてのメッセージをお聞かせください―

演題登録、参加登録、参加登録予定の皆様、誠にありがとうございます。

今大会が実に47年ぶりに帰ってきた（私はまだ生まれてもおりません）ということで、タイミング良く、また大変光栄なことに今回このような大役を仰せつかい、身の引き締まる想いです。「来てよかった！」と心の底から皆様に思っていただける学術大会にすることを勝手ながらお約束します。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

―それでは、今回はここまでといたします。引き続き、皆様に学術大会情報をお伝えしていきます―